

比較文化会報

June 1987 No.8

事務局 青森県弘前市稔町13-1
弘前学院大学英米文学佐藤研究室
電話 (0172) 34-5211 内線 19

発行者 椎野正之
編集者 佐藤幸正

比較と対照

関西支部長 石黒昭博

「比較」と「対照」とは異なる点よく言われるが、細かい点は別として、いずれも「くらべる」ことに違いはない。厳密には、比較の対照は同類同志で、その間に何らかの因果関係のあることが条件となっている。例えば、比較文学では、比較される作家、作品の間に必ず影響関係が無ければならない。作家Aが作家Bに影響を与えていることが明らかの場合に、AとBを比較して、その影響がどのように作品に現われているかを実証的に調べるわけである。芥川龍之介は明らかに前世紀のアメリカの短編作家アンブローズ・ピアースの影響を受けているし、芥川賞作家の庄司肇はJ・D・サリンジャーの影響を受けているという具合にある。こういう因果関係は、文学だけでなく、美術、工芸、音楽、建築の世界にも数多く見られる。

ところが、シェイクスピアと近松門左衛門の両者の比較ということも可能である。この場合には近松にシェイクスピアの直接の影響が存在したことはまず考えられない。したがって、厳密な比較理論からは、この二大劇作家の比較は妥当性を欠くことになる。

因果関係や同類同志に共通に存在する

カテゴリーが多ければ多いほど比較の条件はととのい、比較の妥当性が増すのである。

言語学の世界には、比較言語学という分野があり、ここでも比較される言語は同じ語族や語派に属していることが条件とされている。したがって、日本語と英語とを「くらべる」ことは、比較言語上の研究とはならないのである。しかし、実際には、日本語と英語の共通点や相違点をくらべる研究は盛んに行なわれ、この分野の研究書、論文も数多い。言語学者もこの種の研究の意義を認め、同族語同志をくらべる比較言語学が Comparative Linguistics と呼ばれるのに対して、異族語同志をくらべるのを、対照言語学 Contrastive Linguistics と称して区別している。

従来、この対照研究の方は、外国語教育の分野で盛んに行われ、それはそれなりに効果をあげてきたが、実用的なものが理論的なものより低く見られるという学術的な風潮の中で軽んじられていた面も強かった。しかし、チョムスキーらの唱える生成言語学理論が、言語の普遍性 language universals を強調し出してからは、俄然立場が逆転した。比較言語

学のような緻密な方法論が確立せぬままに、手さぐり状態で対照研究にとり組んできた研究者たちも、ようやく最近になって、方法論の充実に意を向け始めたようである。

最近の日本語教育ブームの中で、日本文学、日本語学、比較文化、国際関係などのコースを開いている各大学、短期大学では、「日本語教授法」、「日英対照文法」、「日英語対照研究」などというクラスを設け始めたが、これらのクラスで実際に何を教えるのかは、英語教授法の場合のように確立していない。しかし、学問分野として定着するためには、野放図がいけないのは当然であり、多少時間がかかろうとも、この辺りで方法論も含めた原則を明確にしておくべきだろう。

「比較」でも「対照」でも、それが単独では決して見せようとなしな横顔をのぞかせるものである。比較文学や比較言語学のような必然的な比較でなくとも、対照研究のような任意的比較が思わぬ果実を生み出すかもしれない。なにも共通性を無理に見つけ出そうとしなくても、お互いの相違点を明白にすることで、それぞれ単独に研究していたのでは、見逃してしまう局面に着目することで十分意味深いのである。「くらべる」ことはこのような意味合いからも、比較でも、対照でも共に学問的意義はもとより、大きな社会的性格とも言うべきものを秘めている。

(同志社大学教授)

なぜ今 Input 理論か

斎藤 栄二

S. D. Krashen が、Input 理論に発展する考え方を提唱したのが一九七〇年代の前半である。日本でもこころ、二年ようやく彼の考え方が英語教育界の関心を集めはじめた。私たちも、彼の考え方を紹介し、あわせて、その日本の英語教育への実際の応用について世に問うてみた(斎藤栄二他著「新しい英語科授業の創造」桐原書店)この本は発売半年目で第二版をだしたのだから、しみながら英語教育関係者の関心を集めたのはまちがいない。

Krashen の考え方は五つの仮説を中心に展開されている。さてこれらの仮説は果たして有効なのかどうか。このことに関しては、まだ研究や議論が必要であろう。そしてそういう研究もなされつつあるので、結論はもう少し待ちたい。私個人としては、それよりは Krashen の言ったことの impact (影響) の方に注目したい。なぜなら、彼の考え方を翻訳していくと、日本の英語教育の現状改善につながるっていく重要な提言がいくつか引き出せるからである。たとえば、私たち教師の文法に対する態度はどうであろうか。英語教師の中には、どちらかという文法をやりながら育ててきた人が多い。だから、生徒の英語力を伸ばすには、

文法を教えて文型を暗記させたりしなればならないと考えがちである。

いわばそういう文法主義や文型主義に対して Krashen の Input 理論はたしかに一石を投じうるのである。しかし考えてみると、Krashen 自身の視野の中には、日本の英語教育がそれほど大きなものとして映っているわけではなからう。私自身にしたところで、Krashen の理論の整合性の中に心がうばわれている訳ではない。問題は、Krashen の良いところを取り入れつつ、どうやってこの国の英語教育を一步でも二歩でも前進させるかということなのである。そのためには、Krashen でもなんでも、役に立つものは、みんな総動員してみようではないか。

(桜の聖母短期大学教授)

関西支部月例研究発表会

関西支部では月例研究発表会を毎月開くことを目標に努力してきました。目標には到達できませんでしたが、昨年発表以来次のように研究発表会を開きました。

。十月二十五日(土) 同志社大学

「ピカレスク・ロマンの系譜」

梅花短期大学

畠 中 康 男

「言語相対説の起伏」

同志社大学

石 黒 昭 博

。十一月二十九日(土)

徳島文理大学香川校

「G・B・理論の評価」

松山高科大学

高 尾 典 史

「名詞節中のwh-語の構造について」

徳島文理大学

阿 部 晃 直

。一月十六日(金) 同志社大学

「Vipassana. An Act of Living」

四天王寺国際仏教大学

ジョン・ペアリー

「日本詩歌の英訳について」

同志社大学

釜 池 進

。三月十四日(土) 同志社大学

「隠喩と表現」

甲南高等学校

岡 良 和

「西オーストラリアにおける移民と外国語としての英語の教育について」

梅花短期大学

エイドリアン・アシントン

各会とも終了後、ダウンタウンや海辺の生食料理屋で懇親会を行ない、出席者のほぼ全員が参加して、酒をくみかわし、時には過度に白熱の討論の統きを行うという習慣が定着いたしました。これもまた意義深いことと喜んでいきます。

(同志社大学 石黒昭博)

ハワイの新聞死亡通知

西村 清 巳

ガーナでは、死者の弔いで競いあう風習の結果、一流紙デイリグラフィック紙十六ページの紙面のうち四ページは毎日死亡通知で埋まるといふ。

思い出されるのはハワイの日本語新聞である。死亡関係が占めるスペースは大きく、一ページに近い紙面が使われることもある。

ハワイでは、一般の人の死亡も新聞記事で報じられることが多い。故人がハワイ生まれのアメリカ国籍でも「原籍広島県・」など日本の地名で始まる経歴が続く。「導師本願寺別院〇〇先生」を筆頭に、司会者、焼香者、弔辞朗読者、謝辞を述べた遺族名などが報じられる。

遺族が新聞に出す黒枠の広告はハワイの場合「会葬御礼」が多い。遺族名に故人の配偶者、子供などが並ぶのは日本と同じだが、故人の兄弟姉妹が、義兄、義妹などの肩書付きのそれぞれの配偶者と並ぶのは、なんとなくアメリカ的。

遺族からハワイ日本人共済会あての「金五百弗也」の「弔慰金受領御札」の広告もある。「〇〇葬儀所」「△△記念公園葬儀所・火葬場」等の広告も多い。吸い込まれるような青空の明るい太陽のもとでのハワイの死亡通知は、独特な悲しみを伝えている。

(弘前大学医療短大部教授)

男女関係の「公」と「私」

西村 清巳

米国の生活で馴染めないものに、女性との身体的接触がある。誤解を招きそうだが、週末に家庭で開かれるホーム・パーティーのことである。

ダンスが始まる。最初は夫婦で踊っているが、やがてパートナーを換え始める。テレビや映画で馴染のシーンである。しかし、隣人の奥方を、文字通りシッカリ抱き締めての強烈なチークダンスを目の前にすると、違和感是否定出来ない。見ているうちはまだいい。やがて、そのダンスに引きずりこまれると、東洋の君子のカルチャーショックは頂点に達する。G・タリーズ著の『汝の隣人の妻』が連想されて罪の意識が先に立つ。

このようにオープンな男女の接触を知る者に意外な印象を与えるのが、大統領選が近くなるとよく出る、女性絡みのスキャンダルの扱い方である。最近、民主党の大統領有力候補者ゲリー・ハートが出馬を断念したと報ぜられた。美人モデルとの仲をスッパ抜かれたためである。古くは、名門ケネディ家の男性群とマリリン・モンローのドラマがある。

男女関係の比較にも「公」「私」の視点の区別が必要なのだ。

(弘前大学医療技術短期大学部)

「84番地」映画化

芳賀 馨

ヘレン・ハンフの書簡集「チャリントン・クロス街84番地」が、こんどは映画化されて、ロンドン・メイフェア地区のカーズン劇場で上映された。「タイムズ・リテラリー・サプルメント」(一九八七年三月二七日)で、アリス・フィリップスが批評している。

本の出版が、七〇年。BBCテレビドラマが七五年。劇場舞台公演が八一年。本の出版以来、約五年毎に、異った芸術ジャンルで作品の価値が再認識されている事自体、興味深い軌跡であるが、私としては、同一作品の異なった芸術ジャンルに基づく特性の比較検討に強い関心をもっている。

(福島県立医大教授・外国語講座)

青森英語談話会活動報告

昭和61年3月13日(木)

「イギリスの博物館と芸術館」

弘前大学 佐藤 憲和

昭和61年4月22日(火)

「ランチの「狂気」について」

弘前学院大学 小林 俊哉

昭和61年5月13日(火)

「セールのスマンの死」(ビデオ鑑賞)

於 弘前学院大学

昭和61年6月24日(火)
「ルイス・キャロルについて」

東北女子短大 鈴木恵理子

昭和61年7月29日(火)

「関係代名詞 Which の用法について」

弘前医療短大 西村 清巳

昭和61年10月28日(火)

「Do-ing (こい)」

弘前医療短大 西村 清巳

昭和61年11月25日(火)

「美意識と鳥類保護」

弘前学院大学 佐藤 幸正

昭和62年1月27日(火)

「The Pentagonal Chamber in Poe's Ligeia」

弘前学院大学 佐藤 和博

昭和62年4月21日(火)

「湖水地方一序文とライダル・マウンツ」

八戸工業大学 町屋 昌明
(弘前大学 佐藤 憲和)

芳賀先生出版記念パーティ

福島県立医大芳賀馨教授編著「ヘレン・ハンフ論纂」(開文社)の出版を記念して、四月二十三日午後七時、福島市上町「キッチン・カローリー」で、ダイナミック・サクセス、S・M・I福島クラブ有志十数名が参加しパーティが開かれた。参加者はすべて芳賀先生のファンで、ハ

ンフ論を拝聴した。二次会は、「ハミング」で、偶然居合わせた医大バドミントンクラブ学生三十数名と合流して、賑やかな夜を過ごした。
(SMI会長・斎藤皓記)

「英語理解の「点」と「線」」出版記念会

学会事務局長の弘前大学医療短大教授西村清巳氏が日本比較文化学会から標記の本を出版された。

「日本人の視点からの英語理解」を指し、主として学生を対象に書かれたものだが、英語教員にも好評である。

出版を記念して、五月一九日弘前大学教養部で、青森英語談話会の会員を中心に参集して、氏の話聞いた。

(青森英語談話会幹事・弘前大学助教授 佐藤 憲和)

近況報告

「英語理解の「点」と「線」」という小さな本を書きました。

今年の9月から来年の3月までアメリカのテネシー大学マーチン校で、客員教授として講義を2コース担当します。

西村 清巳(弘前大学医療短大教授・学会事務局長)

会員執筆新刊

○「ヘレン・ハンフ論纂」「プロローグ」ドウェイの落ちこぼれ」物語」
芳賀馨・編著（福島県立医科大学教授・学会副会長）開文社出版。執筆者の、佐藤憲和、引地岳雄、太田敬雄、佐藤幸正、小林俊哉、林祐一、西村清巳はいずれも
学会員。

○「英語理解の「点」と「線」」
西村清巳・著（弘前大学医療短大教授・学会事務局局長）日本比較文化学会版

「福島国際交流の会」発足

今年の五月十日（日）、福島市黒岩の福島県青少年会館に於て、「福島国際交流の会」が発足した。設立趣意書によると「市民有志が集い、諸外国人との親善友好を深め、外国事情・文化を理解する目的で」結成されたことになる。

設立総会には、本学会顧問・桜の聖母短大今泉ヒナコ学長が記念講演をし、設立準備員には、本学会々員・鈴木美恵子氏も名を連ねている。

なお、福島在住の本学会員も数名、この「国際交流の会」会員として入会し活躍が期待されている。

（東北支部）

日本比較文化学会

第一回関東支部例会

昭和61年11月22日（土）新島学園女子短期大学にて、第一回関東支部例会が次の通り開催された。

総会

会長挨拶 椎野 正之
顧問挨拶 高道 基
昭和60年度会計報告 佐藤 公彦
議題1 昭和61年度役員指名

副支部長 太田 敬雄
幹事 会計 佐藤 公彦
書記 山内 信幸
監事 中澤紀美子
西 基和

2 支部会費
来年度より千円徴収する
3 次回開催の件
4 その他
来年度大会発表の件

研究発表

1 「プッシュバラッドに見られる反体制志向」 中澤美紀子
2 「旧南部の白人小農民層に関する一考察—ジョージア州のUp Countryを中心として—」 斎藤 直一

懇親会

小人数ながら非常に充実した例会であった。

参加者

椎野正之・高道基・松井宜也・太田敬雄・斎藤直一・中澤紀美子・佐藤公彦・植原映子・山内信幸・福島正子（学生）・高橋尋弥（学生）

翌日（23日）椎野会長らは、竹久夢二記念館などを訪れ、初冬の上州路を楽しまれた。

（新島学園女子短大 山内信幸）

福島支部十月例会

昭和61年10月24日（金）午後5時半より、えびすグランドホテルにて、「福島支部の集い」が設けられた。

話題

(1) 会員各自の近況報告
(2) 機関紙「比較文化研究No.5」合評（幹事 引地岳雄）

新会員紹介

小杉 八朗（青森短大・都市工学）
岩村 満（青森大学・イギリス経済史）
久本三朝男（青森大学・商学）
佐藤 三三（弘前大学・社会教育）

左近 善樹（福山大学・コミュニケーション）

赤見 友子（広島大院生・国際社会論）
樋口 穰（同志社大学・日本文化史）

▲事務局だより▼

プログラム発送を早めますので、発表投稿のメ切り日を次のように変更します。

1 研究発表レジメ
(1) 十二月末日必着で事務局まで。
(2) 横書四〇〇字詰原稿用紙・B五版（西洋紙半分大）二枚。
レジメはそのままコピー、製本致しますので、できればワープロ等でタイプした原稿ですと、きれいです。

2 シンポジウム レジメ
(1) 及び(2)とも研究発表の場合と同じ。
その他、「会報」記事、研究論文集「比較文化研究」は従来通り三月末日のメ切りになります。